

【指導事例2】「国語総合」「書くこと」の領域における言語活動例を踏まえた指導1（意見文）

1 「国語総合」「書くこと」の指導事項と言語活動例

新学習指導要領（平成21年3月公示）第2章，第1節国語，第2款各教科，第1国語総合の「2内容，B 書くこと」に「(1)次の事項について指導する。」として，次の4項目がある（以下「指導事項」）。

- ア 相手や目的に応じて題材を選び，文章の形態や文体，語句などを工夫して書くこと。
- イ 論理の構成や展開を工夫し，論拠に基づいて自分の考えを文章にまとめること。
- ウ 対象を的確に説明したり描写したりするなど，適切な表現の仕方を考えて書くこと。
- エ 優れた表現に接してその条件を考えたり，書いた文章について自己評価や相互評価を行ったりして，自分の表現に役立てるとともに，ものの見方，感じ方，考え方を豊かにすること。

また，「(2) (1)に示す事項については，例えば，次のような言語活動を通して指導するものとする。」として，次の3例が取り上げられている（以下「言語活動例」）。

- ア 情景や心情の描写を取り入れて，詩歌をつくったり随筆などを書いたりすること。
- イ 出典を明示して文章や図表などを引用し，説明や意見などを書くこと。
- ウ 相手や目的に応じた語句を用い，手紙や通知などを書くこと。

「書くこと」の指導事項においては，「題材選定・取材・表現の工夫（指導事項ア）」・「構成（指導事項イ）」・「記述（指導事項ウ）」・「推敲・交流・評価（指導事項エ）」といった学習の過程に沿った構成がなされている。これは，小学校及び中学校において学習の過程に沿った内容の構成がなされていることを受けるとともに，「各教科・科目等の指導に当たっては，生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れるようにすること。（「総則」第5款の(5)）」とも関連している。

こうした改訂のねらいを踏まえ，指導事項と具体的な単元の指導と対応させ，指導改善を図るために，【資料1】「具体的な評価規準の設定例（書く能力）」の表中『書く能力』に関する評価規準の設定例のように細分化した。例えば，指導事項のアは，a①とa②の2事項に細分化しており，指導事項アから指導事項エまでの4事項はa①からd③までの合計9事項の評価規準例に分割した。実際の指導においては，これらの複数を同時に指導することも多いが，指導の重点を明確化し，「国語総合」の指導の全体を通してバランスよく指導するために，細かく設定した。

本指導事例では，単元の評価規準とすることのできる例として，指導事項を基に設定した9事項のそれぞれに対応させて，言語活動に応じた具体的な評価規準の設定例を当てることを原則とする。また，設定する言語活動は学習指導要領の言語活動例として挙げられているものの中から設定し，教材は現行の「国語総合」の教科書から選定する。

2 出典を明示して資料などを引用し，説明や意見などを書く言語指導を通じた指導

(1) 指導事項と言語活動との整合性

国語総合の「書くこと」の領域における指導事項から設定した9事項に「言語活動例イ 出典を明示して文章や図表などを引用し、説明や意見などを書くこと」を組み合わせたものが、【資料1】の表中にある「言語活動における具体的な評価規準の設定例」である。

学習指導要領の指導事項が学習の過程に沿った内容の構成となっているため、「意見文を書く」という言語活動においても、「題材選定・取材・表現の工夫（指導事項ア）」・「構成（指導事項イ）」・「記述（指導事項ウ）」・「推敲・交流・評価（指導事項エ）」のそれぞれに対応した指導を実施することが可能である。

ただし、構成に関する指導事項イに関わるb②は論理的な文章において客観性のある資料を用いることについての事項であるため、該当しない単元もある。

また、記述に関する指導事項ウに関わるc①とc②とは単元によっていずれが該当しないことも考えられる。これは指導事項を細分化するに当たり、c①の主に論理的文章の記述における説明に関する指導と、c②の主に文学的文章における描写に関する指導とを分けたためである。記述の目的などに応じて説明や描写を使い分ける能力が必要ではあるが、まず、生徒の実態に応じ、描写に関する指導は、言語活動例アにあげられているような詩歌、随想などの文学的文章を書くことの指導を通して行うことが適当であると考えられる。

指導に際しては、「書くことを主とする指導には30～40単位時間程度を配当するものとし、計画的に指導すること。（4内容の取扱い(3)ア）」として示されている授業時間の目安に従って立案する、年間の指導と評価の計画の見通しによって重点化して取り上げることになる。

例えば、指導事項ウを基に設けた「c① 事実と意見、中心的な部分と付加的な部分との関係を明らかにするなどして、事柄を具体的に説明したり、手順や理由などを論理的に説明したりしている」の事項は、意見文を書くという言語活動においても重点的に指導することが想定できる。しかし、資料の読み取りについて論理的に説明する文章の書き方については参考にできるモデルを示すことによって生徒の負担を軽減する配慮をし、ここでは指導の重点項目としないことも考えられる。その際、年間計画には「説明」について指導する別の単元があることが前提となる。

このように、「資料などを引用し、説明や意見などを書く」という言語指導を通して指導することができる指導事項であっても、年間計画全体の見通しによって、この単元で重点項目とすることの必要性を検討する必要がある。ここで指導と評価の重点として扱わない事項であっても、意見文を書く過程では欠かせない学習活動そのものは含まれており、この単元で指導と評価を位置付けないということである。

(2) 教材の選定

指導事項と言語活動との整合性及び、生徒の実態に応じた年間計画における位置付けに配慮し、ふさわしい教材を選定する必要がある。

本指導事例の教材選定に当たって配慮した条件の概要は以下の点である。

まず、高等学校1年「国語総合」の「読むこと」の領域の論理的文章を読むことについて指導する単元の後に設定すること。生徒の実態にもよるが、同じ教材による「読むこと」の単元に続く、「書くこと」の単元を設定するのが効果的であるという考えによる。

次に、対応する指導事項は、「指導事項ア 相手や目的に応じて題材を選び、文章の形態や文体、語句などを工夫して書くこと」、「指導事項イ 論理の構成や展開を工夫し、論拠に基づいて自分の考えを文章にまとめること」を設定すること。

また、上記の指導事項を、言語活動例イにある「出典を明示して文章や図表などを引用し、説明や意見などを書くこと」を通して指導するものとし、ふさわしい教材を現在使用している「国語総合」の教科書から選定すること。

以上の点を考えて教材を選定するが、まず、「論拠に基づいて自分の考えを文章にまとめる」ことについて指導するためには、考えを述べる題材に応じた客観的で信頼性の高い資料を選択できることが必要である。ウェブページ等も利用して、入手しやすい文章や図表など複数の資料から適切なものを選択し、それを論拠として考えを述べることのできる教材が望ましい。

また、「相手や目的に応じて題材を選」んで書くという題材選定の意義を体得させるために、異なる立場の考え方を挙げつつ、その長短を論じて結論を導いている評論文を教材とし、内容についての共通理解を前提として意見を述べる文章を書かせることにする。これによって題材として取り上げる内容について一定の関心をもっている「相手（読み手）」という設定を意識させることができるだけでなく、教材文における主張と意見を同じくするか異にするかにかかわらず、論拠の確かさに重点をおいて意見を述べるという目的を明確化することができる。

そこで、「国語総合」〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕「(6)ウ(オ)科学的、論理的な見方や考え方を養い、視野を広げることに役立つこと」「(6)ウ(キ)人間、社会、自然などに広く目を向け、考えを深めることに役立つこと」に関連して教科書掲載の次の教材を選定した。

教材 『高等学校 改訂版 国語総合』三省堂
評論 (二)「地球の有限性と人間 ー人口問題の視点より」竹内啓

この教材は、資源・環境問題について同時代の地域間、現代と将来の世代間における公正の観点から考えている評論であり、現代の一般的な論調を引きつつ、その不都合を指摘することを繰り返しつつ筆者自身の論を展開している。

また、この評論にある様々な考え方について、生徒自身の考えを述べる際の論拠として環境省がウェブページに公開している『環境・循環型社会・生物多様性白書』の内容を引用させることにする。HTML版を用いることで、章ごとの内容の分かりやすい目次から、必要な資料が掲載された本文にアクセスし、必要に応じてプリントアウトして手元に置くこともできる。また、「図で見る環境白書」や過年度の白書も同じ環境省のページからアクセスすることができ、習熟度や興味に応じて引用する資料の範囲を指定することも容易である。

(3) 単元の計画

単元案

- ・ 単元名 統計資料をもとに意見文を書こう。
- ・ 教材 ・「地球の有限性と人間ー人口問題の視点より」竹内啓
(『高等学校 改訂版 国語総合』三省堂)
・平成22年版『環境・循環型社会・生物多様性白書』環境省
- ・ 単元の目標 相手や目的に応じて題材を選び、論理の構成や展開を工夫し、論拠に基づいて自分の考えを文章にまとめること。
- ・ 単元の評価規準 (一) 教材文に述べられている筆者の考えに賛成したり、反対したりする意見文の題材を選び、自分の考えを述べるために「環境・循環型社会・生物多様性白書」から適切な資料を選択している。(a①)
(二) 教材文に述べられた筆者の意見と自分自身の意見との関係が明らかになる

ように、「序論（論点の提示）－本論（考えの根拠）－結論（結論と展望）」などの論理の構成や展開を工夫している。（b①）

(三)「環境・循環型社会・生物多様性白書」にある資料とそれを根拠にした考えが、意見文全体の主張と整合性をもって述べられている。（b②）

(四) 教材文に述べられている考えのうち同一のものを題材にした意見文の構成や意見について、自己評価や相互評価をして、説得力のある意見文について考えている。（d②）

・ 指導計画 全4時間

時限	学習内容	具体的な評価規準
1	・教材文に述べられている筆者の考えや筆者とは立場を異にする考えと、「白書」から選択した内容とを関連付け、文中の考えに賛成したり反対したりする意見を述べる題材を設定する。	a① 教材文に述べられている筆者の考えに賛成したり、反対したりする意見文の題材を選び、自分の考えを述べるために「環境・循環型社会・生物多様性白書」から適切な資料を選択している。
2 3	・教材文に述べられた筆者の意見と自分自身の意見との関係が明らかになるように、「序論（論点の提示）－本論（考えの根拠）－結論（結論と展望）」などの論理の構成や展開を工夫し、800字以内の意見文を書く。 ・『環境・循環型社会・生物多様性白書』にある資料とそれを根拠にした考えを、意見文全体の主張と整合性をもって述べる。	b① 教材文に述べられた筆者の意見と自分自身の意見との関係が明らかになるように、「序論（論点の提示）－本論（考えの根拠）－結論（結論と展望）」などの論理の構成や展開を工夫している。 b② 『環境・循環型社会・生物多様性白書』にある資料とそれを根拠にした考えが、意見文全体の主張と整合性をもって述べられている。
4	・教材文に述べられている筆者の考えのうち同一のものを題材にした意見文の構想や意見について、自己評価や相互評価をして、説得力のある意見文について考える。	d② 教材文に述べられている考えのうち同一のものを題材にした意見文の構成や意見について、自己評価や相互評価をして、説得力のある意見文について考えている。

(4) 学習指導案の例

国語科学習指導案

一 日 時 平成〇年〇月〇日

二 クラス 第〇学年〇組

（「三 単元」、「四 教材」、「五 単元の目標」、「六 単元の評価規準」、「七 指導計画」、「八 本時の目標」、「九 本時の評価規準」は記載省略。単元案参照。）

十 本時の指導（全4時間分を掲載）

・ 4時間中の1時間目

学習段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点と評価の実際
導入 (5分)	・本時の学習 目標理解	①・単元の目標と言語活動について確認する。 ・意見文の題材を決めることを理解する。	①・評価の観点を基にして、単元の目標を示す。 ・「資源・環境問題」について800字以内の意見文を書くという言語活動を示す。
展開 (40分)	・教材文の内容 確認 ・資料の選択	②・教材文に述べられている筆者の考えや、筆者とは立場を異にする考えを確認し、意見を述べる題材を考える。 ③・『白書』の内容と自分の意見とを関連付	②・筆者の意見、筆者とは異なる意見を分けて整理する。 ・教材にある考えに対する自分の立場を仮に決めワークシートに記入させる。 【資料2】 ③・環境省『環境・循環型社会・生物多様性白書』から資料を選択し、資料から読み取れる

		け、論拠となる資料を選択し、必要な資料をプリントアウトする。	内容をまとめる。複数資料の関連を考えさせる。 【資料3】 <ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータ室を利用する。 ・資料を選択することが難しい生徒にはグラフ「世界及び各地域の人口推移」(図序 2-1)、グラフ「世界の地域・グループが世界全体に占めるGDPシェアの推移」(図序 2-28)、表「各国における 2020 年の再生可能エネルギーの導入目標一覧」(表序 2-1)などの資料を指定する。 ★自分の意見と論拠となる資料とを関連付けているかをワークシートへの記入に基づいて評価する。(a ①)
終結 (5分)	・次時の予告	④・次時(2・3時間目)の活動を理解する。	④・次時からの2時間で、文章の構成と、論拠としての資料の妥当性について考えて意見文を書くことを予告する。

・4時間中の2・3時間目

学習段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点と評価の実際
導入 (5分)	・本時の学習目標理解	①・本時の目標と言語活動について確認する。	①・評価の観点を基にして、本時の目標を示す。 <ul style="list-style-type: none"> ・文章の構成と、論拠としての資料の妥当性について考えて800字以内の意見文を書くこと確認する。
展開 (40分)	・資料の分析 ・文章の構成 ・意見文を書く。	②・自分の意見とその論拠をワークシートに整理する。 ③・意見文の構成を考えてワークシートに記載する。 ④・意見文を書く。	②・教材にある意見と自分の意見の関係、自分の意見と資料から読み取れる内容との関係について整理させる。 【資料3】 <ul style="list-style-type: none"> ・複数の資料を組み合わせる効果について考えさせる。 ③・意見文の構成を考えさせる。 ・「序論(論点の提示)ー本論(考えの根拠)ー結論(結論と展望)」の構成を基本として示す。 【資料3】 <ul style="list-style-type: none"> ・構成について生徒間で相互に検討させる。 ④・意見文を書かせる。 ★意見文の構成と意見文の内容についてワークシートの記載と意見文に基づいて評価する。(b ①②)
終結 (5分)	・本時の確認と次時の予告	⑤・次時(4時間目)の活動を理解する。	⑤・次時(4時間目)には、意見文を相互評価し合うことを予告する。

・4時間中の4時間目

学習段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点と評価の実際
導入 (5分)	・本時の学習目標理解	①・本時の目標と言語活動について理解する。	①・評価の観点を基にして、本時の目標を示す。 <ul style="list-style-type: none"> ・意見文の題材によって相互評価のためのグループを指定する。
展開 (35分)	・相互評価	②・意見文を相互評価する。	②・教材文にある考えのうち同一のものを題材として意見文を書いた生徒同士で作品を読み、相互評価させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・教材文にある考えのうち異なるものを題材として意見文を書いた生徒同士で作品を読み相互評価させる。 ・評価表と口頭によって評価させる。 ★評価表の記載に基づいて評価する。(d ②)
終結 (10分)	・単元のまとめ	③・意見文についてのまとめをする。	③・教材文の考えに賛成、反対のそれぞれの立場による意見文の優れた点について、指導者が具体例を挙げて紹介する。

【資料1】「具体的な評価規準の設定例（書く能力）」

【学習指導要領】 (1) 次の事項について指導する。	「書く能力」に関する 評価規準の設定例（9項目）	重 点 化	言語活動における 具体的な評価規準の設定例
ア 相手や目的に応じて題材を選び、文章の形態や文体、語句などを工夫して書くこと。	a ① 相手や目的に応じて題材を選び、集めた材料の中から必要なものを取捨選択している。	○	・教材文に述べられている筆者の考えに賛成したり、反対したりする意見文の題材を選び、自分の考えを述べるために「環境・循環型社会・生物多様性白書」から適切な資料を選択している。
	a ② 相手や目的に応じて適切な文章の形態や文体、語句を選んで書いている。		・論理的な文章を書くための文体や語句を選んで書いている。
イ 論理の構成や展開を工夫し、論拠に基づいて自分の考えを文章にまとめること。	b ① 自らの考えを説得力のある文章で表現するために、思考を整理し、論理の構成や展開を工夫して書いている。	○	・教材文に述べられた筆者の意見と自分自身の意見との関係が明らかになるように、「序論（論点の提示）－本論（考えの根拠）－結論（結論と展望）」などの論理の構成や展開を工夫している。
	b ② 客観性のある資料を根拠として、論理的な展開の文章を書き、自分の考えをまとめている。	○	・『環境・循環型社会・生物多様性白書』にある資料とそれを根拠にした考えが、意見文全体の主張と整合性をもって述べられている。
ウ 対象を的確に説明したり描写したりするなど、適切な表現の仕方を考えて書くこと。	c ① 事実と意見、中心的な部分と付加的な部分との関係を明らかにするなどして、事柄を具体的に説明したり、手順や理由などを論理的に説明したりしている。		・資料から読み取ることのできる事実や、そこから結論に至る考えを論理的に述べている。
	c ② 表現技法等の表現の仕方を工夫するなどして、物事の様子や心情等を描写している。		・該当なし
エ 優れた表現に接してその条件を考えたり、書いた文章について自己評価や相互評価を行ったりして、自分の表現に役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。	d ① 内容や表現の優れた文章に接して、その優れた点を分析し、表現に役立てている。		・教材文に引用されている「二酸化炭素排出量の比較(2000年)」のデータの筆者による分析と、それに基づく主張とを整理している。
	d ② 文章の内容や表現などについて、自己評価や相互評価することで、表現に役立てている。	○	・教材文に述べられている考えのうち同一のものを題材にした意見文の構成や意見について、自己評価や相互評価をして、説得力のある意見文について考えている。
	d ③ 幅広く文章を読んで、文章を書くのに必要なものの見方、感じ方、考え方を豊かにしている。		・教材文、『環境・循環型社会・生物多様性白書』の関連部分を読むことを通して、公正に判断し、論理的な見方をして意見文を書いている。

【資料2】「環境問題」について考えるためのワークシート例（1時間目）

「地球の有限性と人間 - 人口問題の視点より」 年 組氏名					
・「意見」欄に賛成（○），反対（×）を記入し、意見文の題材としたいもののページ欄に○をつけなさい。					
ページ	筆者の考え	意見	ページ	筆者と異なる考え	意見
53	・公害問題や環境汚染への対処の仕方については、知識や経験の積み重ねがあり、人口との関係で解決不可能な問題とはいえない。				
55	・大気中の二酸化炭素の増大による温暖化の問題のような地球環境問題は、地球上に維持できる人口に限界があることを意味している。				
56	・人間社会への自然の制約を完全に打破することは不可能であり、これまでも自然の制約によって文明の発達が停滞したり、逆行したりすることもあった。				
57	・人間社会への自然の制約の新しい形が、資源問題や環境問題である。				
57	・科学技術の発展により、人間が自然条件を変え、人間の主体の基盤を破壊してしまう危険性がより大きくなっている。				
58	・近代以前の技術による自然破壊も、起こってしまえば回復は著しく困難である。		57	・近代の科学技術は特に破壊的な力が強い。	
58	・近代科学技術は破壊的な力だけでなく、破壊を修復する力も強い。		57	・近代以前の技術は自然と調和的であった。	
			58	・人間は自然を思いのままにできる。	
58	・環境破壊に関するどんな問題に関しても解決の方向はある。		58	・人間の環境破壊によって、人類の文明は滅んでいく。	
59	・自然との緊張関係の中で最もたいせつなことは人間が協力し共同することである。				
59	・先進国では、開発途上国の何倍も多くのエネルギーや資源を消費している。				
60	・先進国では、開発途上国に比べて一人当たりの二酸化炭素排出量はるかに多い。				
60	・資源や環境と人口とのバランスから、開発途上国の人口増加を問題視するのは許されない。		60	・開発途上国の人口増加が、資源の枯渇や環境破壊の原因である。	
61	・有限な資源や環境をすべての人々が公平に享受できるようにすることがたいせつである。		61	・経済発展と資源・環境保全との間には矛盾がある。	
61	・資源・環境問題は世代間の分配の問題である。				
62	・資源・環境保全と公正な社会秩序の建設は不可分の問題である。				

【資料3】「環境問題」について資料に基づいて考えを述べるためのワークシート例（1～3時間目）

資料をもとに意見文を書こう

年 組氏名

1 「地球の有限性と人間 ー人口問題の視点より」に述べられている考えのうち題材とするもの

①

2 『環境・循環型社会・生物多様性白書』から引用する資料とそこから読み取れること

資料番号	資料のタイトル	資料からわかること

3 意見文で述べる考え

1の考えに（ 賛成 ・ 反対 ）の立場で意見を述べる。

中心となる意見	
---------	--

4 意見文の構成

序論	
本論	
結論	